

## 市民の声とインターネット

吉村順子

junko@suehiro.nakano.tokyo.jp

## トラブルとリスク

ある会で「順子さんたちの周りではいろいろトラブルが起こっているらしいけれど、そうした情報は全然出さないと、いい話ばかりするのはずい」といった指摘を受けました。というわけで、今回はお活動にともなうトラブルとコンピュータネットワークを使うことのリスクの話です。

とくに市民活動ボランティアの場合は、行動が善意に基づいているだけに誤解が起こると感情的になりやすい面があります。また、仕事にとりかかる際に約束不履行があったときの取り決めをすることはほとんどありませんから、泥沼化すると收拾がつかなくなりがちです。こうした事態を避けるためには、仕事をたのむ側は要望と仕事の期限をきちんと伝えることが大切です。

しかし、日本の場合は、ボランティア活動の基本姿勢のようなものがまだ広く浸透しているとはいえ、しかも初めて出会う同士がトレーニング期間なしで仕事をしなければならぬことが多くあります。お互いの力量が把握できていない中で、仕事をしながら信頼関係を作るのは、意外と大変なことです。

引き受けた側はまず頼まれた範囲で責任をもって行動し、活動実績を築きながらイニシアティブを発揮していくことが大切でしょう。

団体で市民活動をすすめるときに、情報発信は大切です。責任体制を明確にし、何をやりたいかわかりやすく伝えていくことはとても重要なことです。すぐに理解されなくても、きちんと情報発信を続けることで、やりたいことがしだいに伝わっていきます。目的や活動内容が明らかになればなるほど、周囲は安心し、活動が定着しやすくなります。

そのためにパンフレットやチラシを作ったりしますが、インターネットを利用するならWWWホームページを持ったり、ネットニュースやメーリングリストを組み合わせることで幅広い広報活動が可能になります。とくに活動の流れを一貫して説明するには、WWWホームページは優れた方法だと思います。

最近ではインターネットブームの余波というのか「インターネットにはなんでもある」と信じている人が少なからずいます。しかし、実際の社会で起こっていることすべてをインターネットに載せていくことは、まだできません(未来では、1人に1台秘書のようなマシンが貼りついて、行動を逐一記録し蓄積するよう

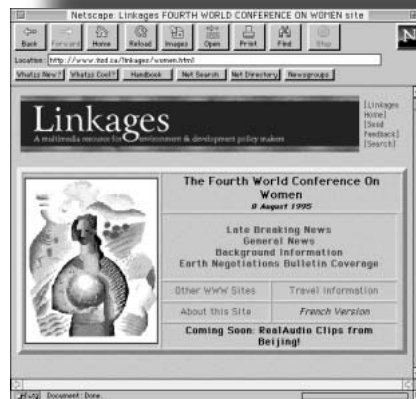
になるかもしれませんが……)。

当分の間は、インターネットや他のコンピュータネットワークを使っている個人や組織と上手につき合うためには、画面に現れない部分をそれ以外の資料などとつき合わせて正確に推量することが欠かせません。

それでも、まだトラブルは起こります。幾度となくトラブルを乗り越えてきた市民活動の先輩に話を聞いてまわうちに「解決するには、やはり話し合うしかない」とわかりました。みんな何かがやりたいから集まって活動するわけですから、それを周囲に正しく伝え、必要があれば他の団体と交流するなど、話し合うことに労力を割かなければなりません。

チラシとマスコミに頼っていた時代は、市民活動が定着するのに数年かかったという話をよく聞きました。インターネットを使うことで、その期間は縮まるのでしょうか？ 人間の認知力なんてそう大幅に変化するものではないから、時間だけは同じくらいかかるかもしれませんね。

この号が出る頃、私は国境を越えて市民活動している女性たちといっしょに仕事をするため中国の懷柔市にいます。世界女性会議NGOフォーラムのAPCコミュニケーションセンターで「日本語ができる」というネームプレートをつけていると思いますので、もし見つけたら声をかけてくださいな。



WOMのホームページ

http://www.iisd.ca/linkages/women.html



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)